

出会い ふれあい 助け合い

# サロンあべの

VOL.173

△サロン・あべの△10月の出会い

平成12年10月21日(土)午後  
から△サロン・あべの△10月の  
出合いを開催しました。

今月は、育徳コミュニティー  
センターを飛び出して、住之江  
区にあるATCエイジレスセン  
ターの見学会でした。

長居障害者スポーツセンター  
で集合、自動車に分乗して出発。  
それぞれの車中で会話が弾んで  
いる間に、ITM棟の11階にあ

## ATCエイジレスセンター見学会

るATCエイジレスセンターに  
到着し、現地集合の人たちと合  
流しました。

### ATCエイジレスセンター

まず、センター概要をパンフ  
レットに添って、センター職員  
の若林さんから説明を受けまし  
た。

ATCエイジレスセンターで  
は、年齢やハンディのあるなし  
にかかわらず子どもからお年寄

りまであらゆる人々が積極的に  
社会参加し、心豊かに生活でき  
る社会の実現を目指してさまざ  
まな提案を行っています。

センター内はAからLの12ゾ  
ーンに分かれていてテーマを設  
けて、展示や体験、イベントな  
どを通じて来場者の皆さんが、  
自分自身の問題として少しでも  
考えられるユニバーサルな社会  
への提案館となっています

各ゾーンの展示見学・体験

説明後、早速「バリアフリー体験ゾーン」へ向かいました。

模範的に作られた家(キッチン・風呂・洗面・トイレ)や街(駅)の自動改札・自動販売機・公園)の中での「移動」を通じて、特に車いすの人にとって3枚引き戸・段差解消機などハンディを感じさせない街づくりの提案がなされていきました。また、スロープを車いす介助して上り降りする場合、電動で負担をアシストする車いすなどもありました。

「いきいき元気ゾーン」では、健常者がメガネをかけたたり手足に装具を着けて高齢者の擬似体験をして、その不自由さを実感しました。また、高齢者向けの旅行紹介などもあり、いきいきした生活に欠かせない健康や趣味・生きがい、さらに美しさへの提案がなされ、年齢にとらわれないものでした。

「あんしんおでかけゾーン」

では、電動車いすの試乗をして、街中の坂道やでこぼこのある不整備な道を再現したコースを体験したり、車いすに乗ったままで自動車に乗れる福祉車両の展示など、安全に行動範囲を広げられる移動機器の提案でした。



ハンディを感じさせない自動改札の提案

「ゆうゆう生活ゾーン」では、海外の健康福祉機器紹介や頭の老化度チェックなどがありました。

また、「らくらく生活ゾーン」では、多種類の車いすや着用しやすい衣料品、補聴器類など生

活をサポートする福祉機器、介護用品全般の展示、体脂肪チェックなどを行っていました。

「たのしいわが家ゾーン」では、バリアフリー住宅のモデルがあり、玄関から上りがまちの段差解消や、車いすの人は段差解消機で室内に入りました。廊下の幅は広い所で1メートル、狭い所で80センチを確保されており、車いすも楽に通れるようになっていきました。また、浴室・トイレの出入り口も段差を無くし3枚引き戸になっており、身体を移動しなくても開閉ができるようになっていきました。階段は、手すりや足下灯、階段昇降機が設置されていきました。もちろんホームエレベーターの展示もありました。

各ゾーンの見学や体験をした後、ロジック風に木の丸太で組まれた温かみのある「ふれあい喫茶・山小屋」で、休憩をしまし

た。コーヒーなど各自好みの物を飲みながら自己紹介と感想を聞きました。

「いろいろと参考になった」

「久しぶりに参加して、話ができて良かった」

「ATCは何度か来たことがあ  
るが、エイジレスセンターは初めて」など。

センター内では、職員の方々に丁寧な説明をしていただき、ありがとうございました。

たくさんさんの展示品の見学と体験で、アツという間に時間が過ぎたハサロン・あべのV10月の出会いでした。

参加者15名(山村貴司)



## 自立生活理念を考える —自己決定と介助—

■ 6 ■

黒田隆之

前回紹介したいくつかの定義は、障害者の自立生活を意識した定義ではないこともあり、介助を通しての障害者と介助者の関係性のあり方については、特に意識されていない内容となっている。

北野誠一先生は介助を「障害があるために、通常は自分ですることを、他人が援助すること」と定義しているが、それを参考に自立生活を意識した介助の定義を考えてみたい。

人はさまざまな面でさまざまな程度の能力を持っている。それは運動能力であったり知的能力であったり、また表現能力、創

作能力であったりもする。それらの能力には一般的にはばらつきがあり人それぞれであるが、障害を持つということが、その一般的ならばつきからかけ離れた位置にあることを指すならば、ある特定の能力に関して

は障害者がいくらか努力してもできないだろうと考えられることは当然存在する。しかし、そのような障害者の持っている固有の能力を拡張することで、つまり障害者がその障害ゆえに持っていない能力を介助者が補うことにより、何らかの形で通常は自分ですることが障害者でも可能となる。

体に麻痺や強い緊張があるために、はしやスプーンを持って自分一人では食事をとることができない人がいるとしよう。この場合の介助とは、食べる方法、食べる量、口に入れるおかずの順番、嫌いなものは食べたくない、などといった障害者の指示にしたがって食物を口に運ぶことである。またコミュニケーションが取りにくい場合には介助者の方から障害者に確認を取りながら食事をすすめることも考えられる。これらの場合、介助をすすめる上で、その発端は障害者の意思にある。障害者の「食べた

い」という意思がきっかけとなって、障害者と介助者の関係が動き出す。

意思を持つということはその人固有の能力である。一般的には、食べようという意思を持ち、それにより手を動かすという行動を起こすわけだが、障害があるために意思が行動へと結びつかない。介助とは、障害者の意思を何らかの行動、もしくはその行動によってなされるであろう結果に結び付けるものであると考えることができ

るので、障害者の自立生活を可能にする介助を次のように定義したい。「介助とは、障害があるために、通常は自分ですることを自分一人ではできない人のための、その人のもつ固有の能力の拡張となる行為のことである」と。「能力の拡張」とは、障害者の意思を、何らかの動作・行動に結び付けるベクトルである。

介助をこのように定義すると、障害者の自己決定を無視したかたちでの支援は「介助」ではなくなる。また、身辺における介助ニーズ、社会活動における介助ニーズなどその障害者もつニーズすべてに、さらには時系列的ニーズ変化にも対応できる。

# 「サロン・あべの」紙とは？

番外編

うえひら☆ゆきお

今回は、「サロン・あべの」紙と会計との関係について、書きたいと思います。

## 「サロン・あべの」紙

いつも「サロン・あべの」紙を読んでいただき、ありがとうございます。

前にも書きましたとおり、「サロン・あべの」紙は、前回の出合いの報告と共に、学術的な論文、そして、岡さんのエッセーを柱に編集しています。現在は、六百部を印刷し、うち約四百部を、直接読者あてに郵送しています。

その読者の中心は、過去の参加者とパネラーです。一度でも、出合いに参加してくださった方には、原則として「サロン・あべの」紙を送らせていただいています。そうすることで、また「サロン・あべの」に参加していただきたいからです。参加者と毎月の出合いを結ぶ。それが「サロン・あべの」紙の最大の役割なのです。

それ以外にも、「サロン・あべの」の活動を誰かに説明したり、参加を呼び掛けたるときにも、「サロン・あべの」紙が活躍してくれます。ただ問題なのは、その発行に必要な費用なのです。

## 会計担当者の悩み

「サロン・あべの」の運営費のおおよそ七割。年間四十五万円ほどが、「サロン・あべの」紙の印刷と郵送に必要です。

会費や購読料をいただいていないのに、「サロン・あべの」が十五年間も活動を続けて来られたのは、読者からの寄付があったからです。右肩上がりという言葉があります。まさにそのとおりで、参加者が増えるにしたがって、「サロン・あべの」紙の発行部数が増え、またそれに見合う形で、寄付金も増えました。ただ、ここ数年は、出合いへの参加者が減少傾向にあり、それに呼応するかのようには、財政難が深刻化し

ています。

何年前でしょうか。寄付金などのお願いをしたこともありますが、今回、さらに抜本的な解決策が必要な時期にあるようです。

会費や購読料をいただかないという、無償の原則を変えたくはありません。しかし、減りこそすれ、増える見込みのない寄付金に頼ることもできません。だとすれば、支出を抑えるしかないようです。

## 解決策を探る

支出の中で一番大きいのが、「サロン・あべの」紙の印刷代金です。発行頻度をそのままに、しかも内容を落とさないとすれば、発行部数を減らすしか方法はありません。

具体的には決まっていますが、ひとつの方法として、「サロン・あべの」紙の読者に、これからも引き続き読んでいただけるのか、その意志確認をしたいと考えています。

これまでは、言わば一方的に「サロン・あべの」紙を送りつけていたわけで、中には迷惑に思っている方や、まったく読んで

いない方もいると思います。やはり何年前に、不要な方からの連絡をお願いしましたが、もし、読んでおられないのなら、その記事さえも気付かないわけですから。読者のみなさまには、お手数をおかけするかもしれませんが、そのときは、よろしくお願いいたします。



## 感謝

カンパ、切手、はがき、チケット、お茶  
お菓子、朗読テープ等のご寄贈を、またサ  
ロングッズのお買い上げをありがとうございます。  
いました。

大阪大淀ロータリークラブ、奥田真祐美、  
風 智恵子、桑田加代子、坂井百合子、  
猿田 博、高木陽子、竹村安子、  
田中美佐保、田村昌子、樋口京子、  
吉原和郎、その他の方々

## ききみみずきん

### 感謝状

秋の定番といえば運動会や文化祭、それに各団体や個人への顕彰会など一味違った行事が行われます。サロン活動はそのどれもにも属さないものと思っていましたら、この度「身体障害者福祉法施行50周年・知的障害者福祉法施行40周年」を記念して10月8日(日)アピオ大阪森ノ宮ピロティホールで開催された「大阪市記念大会」において、  
「大阪市長より感謝状を贈呈されました。障害者福祉事業の推進に対してと個人・団体を含めて34名が感謝状を受け、  
「サロン・あべの」もその一員として授与されました。小さな会の小さな歩みですが、多くの方々にご支援やご協力をいただいて今日があると考えますと、この感謝状はサロンに関係してくださったもの全員の皆様に使っていただけたと思います。サロンに参加された方やサロン紙を読んでくださった方から、電話やお便りで感想などを聞かせていただくことがあります。その中で一番嬉しいのは、「サロンに参加して楽しかった」という言葉ですが、その他にも「勉強になる」とか、「障害を持つている人だけの問題ではない」とも。最近の言葉で嬉しかったのは、「サロンでは、当たり前の心で話ができる」と言ってくださったことです。これらの言葉は委員に取りまして、感謝状以上の喜びです。  
(け)

## ★人から教わる

自分独りで本を読んだり、考えたりしているだけでは決してわからないことは少なくない。人と向かい合い、人から教わることは、何かを身につけるためにはどうしても必要なことがある。先日、社会福祉学会の大会に参加してつくづくそう思った。

社会福祉学会の大会とは、社会福祉の研究が発表される場として毎年開かれていく集会である。全国から社会福祉について研究している人々が集まり、自分の考えていること、調べたことなどを壇上に立ち、あるいは自分が描いた図や表を貼った壁を背にして話すのである。

発表したいという意思があれば、誰でも発表できる仕組みなので、当然、発表の内容には大きな「ばらつき」がある。よく準備された素晴らしいものがある一方で、見ているほうが気の毒になるほどの失敗作もある。

しかし失敗したように見える人たちの

発表をよく聞いてみると、実に一生懸命、研究に取り組んでいる様子が見える。怠けていたから、こんな結果になったわけではない。たぶん、どんなふうにも研究を進めていけばいいのかわからなかった



のだろう。

逆に、若い人でも水準の高い研究をしている人は良い指導者に恵まれているのである。きちんと基礎を教わっている

そこが強みになっている。

不思議なのは、失敗している人たちは、なぜ自分が失敗しているのかわかっていないことだ。なんとなく自分の発表は良くないことがわかる。しかし、なぜそうなのかわからない。他の人の発表と比べたらわかりそうなものだが、やはり気がつかない。

自分独りで学ぶことの難しさはここにあると思う。目や耳にはたくさん情報が入ってくる。しかし、そのたくさん情報のなかから、人は自分の理解できるものしか吸収しない。自分がわからないものは目に映っていても見えないし、聞こえていても耳を傾けようとはしない。したがって新しい情報に接する機会があっても、人の考えかたは変わらないことが多いのである。

ところが向かい合って人から学ぶ場合は、わかっていることに気づかされる。わかっていることを「わかっているよ」と注意される。一人で本を読んでは

ても、本は「君はわかっていないじゃないか」とは決して言わない。だから内容がわからなくても本は最後のページまで読ませてしまう。若い日の古典文学の読書はたいていそうであろう。本を読み終えたことと、本の内容を理解したことの間には大きな溝がある。

サロン紙の読者が関心をもっている、ボランティア活動についても同じことが言えるだろう。ボランティア活動についての本を何冊も読み、講演を何度聴いても、あるいは自分自身でボランティア活動をしていても、それをたった一人で行っているかぎり、ボランティアについて十分に理解することは難しい。多くの人と語り合い、誰かから直接、教わらなければ独り善がりの奇妙な活動になってしまうと思うのである。(知)

岡知史著

□ 知らされない愛について  
□ ほんの少しの神に近い部分

◎ どちらも・7000円  
06・6691・1028 富田まで

共同募金とショッピング

十月の始め、私は電動(車いす)で布施のビブレまで買い物に行った。プロ野球の巨人がリーグ優勝したので、その祝勝セールをやっていた。どの売り場も一〜二割程度安かったが、これといって目ぼしいものはなかった。ただおもちゃ売り場でマジックハンドを買った。私は手が不自由なので、なんでもすぐに落とす。マジックハンドがあれば大変便利で、簡単に拾うことができる。

ビブレを出ると、すっかり暗くなっていた。駅の方に向かって電動を走らせていると、どこからともなく「お願いしまーす」という声が聞こえてくる。近づくると数人の女性が共同募金を呼

晴れのち晴れ

②6

稲垣 恵雄

びかけていた。ふと見ると、毎週木曜日にわが家へ来てくれるヘルパーのIさんも立っているではないか。私が「偶然お会いしましたね」と言うと、Iさんは「本当ですね……。この子うちの子ですもん」と横の子供の方に視線を向けた。そして彼女は電動のうしろのカゴのマジックハンドを見ながら、「買ってきたんですね」とうれしそうに話すのである。そういえばマジックハンドの売っている店を教えてくださいましたのはIさんだった。

Iさんの子供の募金箱に少しのお金を入れて、その場から立ち去った。

自ら進んで寄付やカンパをすることを喜捨きしよという。私にはとうていこんな気持ちになれないが、たとえわずかでも募金をすると、ちょうど秋の季節のように心もさわやかである。

# 植物あれこれ 第二十二回 山口康二郎

ハーブ(1) しそ科のハーブ

## ① バジル

定年になって、今までの恩返しのため「障害者理解」と趣味を生かした「園芸」の二部門で、生涯学習インストラクターを始めました。「障害者理解」は学校関係が圧倒的に多いので

すが、「園芸」はいろいろな団体から声が掛かります。

その中でもハーブを使った寄せ植えなどの依頼が最も多いです。日本では、目新しく思われ一種のブームといえるハーブですが、古くは六万年前ネアンデルタール人の遺跡から八種類のハーブが発見されているくらい、古くから利用されていたのです。

西洋では古代からハーブを、お茶、料



理、芳香剤、染料、浴剤、防虫剤などに利用し生活に役立ててきました。殊に、ギリシャのヒポクラテス以来十九世紀まで、ハーブは病気の治療薬として用いられていました。外国映画で子供がお腹の調子が悪いと訴えたとき、母親が「カモミールティを飲みなさい」というセリフが

今も使われている。さして、食いしん坊の私が最も好きなハーブの第一はスイートバジルです。インド原産のしそ科の一年草で甘い香りはどんな料理にも合います。特に玉子焼きに入れるとたまりません。口の中で広がる香りは何

ともいえない美味しさです。余談になりますが、終戦時九歳だった私たちにとつては、玉子は最も高級な食べ物でした。病気見舞いに十個も玉子を持つていくと、どんなに喜ばれたことか・・・五〇年経っても私の意識では玉子は高級な食べ物なのです。

バジルはフランスでは「王家の草」と呼ばれるほど、料理の香辛料として多く使われ、その香りは、頭をクリアにし、集中力を高める効果があるといわれています。食べると消化不良、胃痙攣、吐き気など消化器官の不調を好転さす効果があり、また痛風、肩こりなどを軽減さす効果もあるといわれています。

料理で気をつけたいことは、香りを逃がさないことで、それにはバジルを最後に切ることです。しそ科といえばその他セージ、タイム、ミント、ローズマリー、オレガノ、レモンバームなどよく知られたハーブが沢山あり、いずれも簡単に育てられます。地中海原産ですので、寒さに弱いのと梅雨の湿気

とたまりません。口の中で広がる香りは何ともいえない美味しさです。余談になりますが、終戦時九歳だった私たちにとつては、玉子は最も高級な食べ物でした。病気見舞いに十個も玉子を持つていくと、どんなに喜ばれたことか・・・五〇年経っても私の意識では玉子は高級な食べ物なのです。



に弱いことぐらいで、ちよつとした気配りをすれば春から秋までどんだん成長し、それぞれ独特の香りで心を癒してくれます。特にミント類は、根が増えていきますので、独立した鉢で育てた方がよいでしょう。

## 美智子のこんな話

岸田美智子

奉仕活動の義務化について

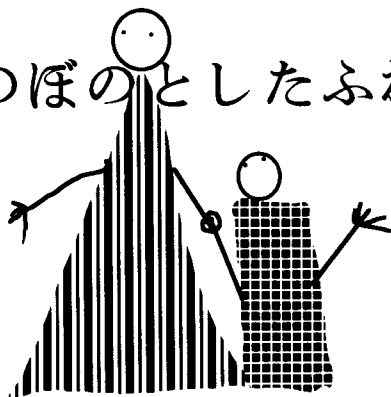
奉仕活動の義務化の問題が最近取りざたされていますが、やはり義務化はしつくりこない気がします。

私の周りの介助者が、ヘルパー養成講座の実技の中で福祉施設に実習に行かされる場合があり、その時の話をよく聞かれます。その施設によって実習生や地域のボランティアを受け入れる姿勢がいろいろ違うのですが、その多くは施設の利用者（老人や障害者）との関わりや身辺介助の体験にはなかなか加えてもらえず、トイレや廊下の掃除ばかりに終ったり、洗濯物やシーツの片付けばかりに終った。何のために実習やボランティアに行っているのかわからないという意見をよく聞きます。利用者にとっても義務感でイヤイヤ来られたのでは、たまったものではありません。

今の福祉施設の現場では、職員の手が足りず実習生やボランティアにいろいろ伝えたり、技術を見につけてもらうためのプログラムを提供できる余裕がありません。それどころか施設側からは迷惑だとはつきり言われる場合さえあるのです。

このような状況の中で、奉仕活動を義務化したとしてもお互いに迷惑で終ってしまい、新しい出会いや人間関係がひろがっていく可能性はないし、感動や価値観の転換

ほのぼのとしたふれあい、いかがです。



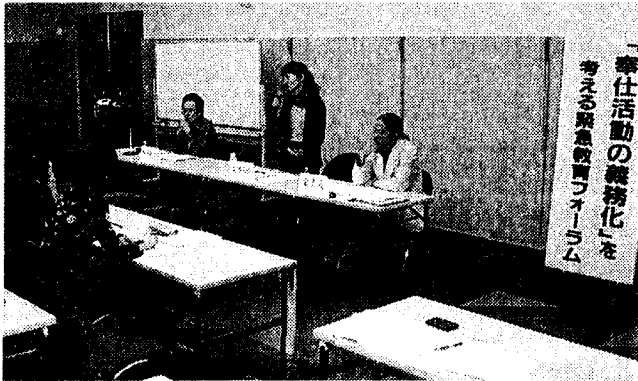
これは便利。

**一筆箋**

1冊100枚綴 ¥150-

<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力ください。

奉仕活動の義務化について意見を出し合う関西のボランティア団体代表ら＝大阪市浪速区のO.C.A.Tホールで



# 「奉仕活動の義務化」めぐり議論

に結びついたりすることはあり得ないのではないでしょうか。もちろん、一部の人が、イヤイヤ出会った中からでも成長していかれる時もあるでしょうが、それはほんのひとにぎりだと思いますが、皆さんはどう思われますか？

この問題を取り上げた新聞記事を掲載しておきますので、読んでみてください。  
連絡先  
自立生活センター・MY・DO(まいど)

(担当)池田

〒五五八-0002  
大阪市住吉区長居西二-九-十二  
TEL 〇六-六六〇九-三三三三  
FAX 〇六-六六〇九-三三二〇  
E-mail  
cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

## ボランティア団体がシンポ

教育改革国民会議の提言の中に盛り込まれた「奉仕活動の義務化」を考えるフォーラムが二十日、大阪市内で開かれた。日本ボランティア学会の有志が主催した。東京大学大学院の佐藤学教授が「近く発表される世論調査では、国民の八割が奉仕活動の義務化に賛成している」と現状を紹介。その上で、「子どもの本当の危機とは求人倍率の低下など社会参加の機会の激減と、それに伴う『学びからの逃走』だ。正しい対処法は子どもに市民としての自由と権利を与えること。復古調の奉仕活動の義務化は、かえって危機を深め

る」と話した。パネルトークでは、市民活動センター神戸の代表者が「社会の規範意識の荒廃はまず何よりも大人の問題だ」と指摘した。また、大阪YWCA教育総合研究所の金香百合所長は「子どもの自尊心を高めるのにボランティアは役立つが、大人からの指示があふれ、比較され、評価されるという関係の中では、マイナスの効果しか生まない」と話した。大阪ボランティア協会の岡本菜一理事長は「福祉施設ではきりぎりしとこゝろで日常が回っており、子どもたちを受け入れる余裕は『まじない』と話した。九月に東京で開かれた集会では「アメリカでは、社会活動は『やるもんだ』と自然に

受け止めている。日本の高校生にそれを体験させてあげられないのはもったいない」と奉仕活動の義務化に賛成する声もあった。

### 対案準備の動きも

大阪ボランティア協会の早瀬昇さんは、インターネット上で「奉仕活動義務化」反対要請書を作った。その中で、「全国一律の奉仕でなく地域社会の独自色を」「目標を国家への奉仕ではなく、多様性を認め主体的な市民となるための学習とする」など十項目の対案をまとめている。

ネット上で対案への賛同署名や意見を求め、今月末にも教育改革国民会議や文部省などに提出する予定だ。問い合わせは同協会(06-6357-5741)へ。



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」12月の社会い

日時: 12月17日(日) 午後1時30分~午後4時

場所: 淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

内容: 夢を取り戻す日、それは、クリスマス  
~大人になってもサンタクロースの存在を信じたい、  
今年最後のサロン。ケーキ作りやゲームで楽しい日  
にしませんか~

会費: なし

問い合わせ先: 淀川区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6394-2900

■「サロン・ひらの」12月の社会い

日時: 12月9日(土) 午後1時30分~4時

場所: にこにこセンター3階

大阪市平野区平野東2-1-30

内容: クリスマスパティー

会費: 大人(中学生以上) 600円

小人(小学6年迄) 300円

\*プレゼントをご用意ください(家にある品物で)

申し込み締め切り: 12月2日

問い合わせ・申し込み先: 平野区ボランティア・ビューロー

大西 ☎06-6795-2200

■「サロン・にし」12月の社会い

日時: 12月9日(土) 午後1時30分~4時30分

場所: 西区ボランティアビューロー 室

大阪市西區北堀江4-5-14 6階(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内容: みんなで、クリスマスパーティー!!

~クリスマスソング、サンタ、ゲームなど、  
楽しみましょう~

会費: 中学生以上500円 小学生以下無料

問い合わせ先: 宮脇 ☎06-6537-0241

■《てくてく・すみよし》12月の社会い

日時: 12月9日(土) 午前11時~午後3時

場所: 住吉区在宅サービスセンター 3階会議室

大阪市住吉区浅香1-8-17

内容: 年忘れ ——ハーモニカ演奏——

出演: 住吉ホールハーモニカクラブの皆さま

会費: 2000円(昼食付き)

申し込み締め切り: 12月4日

問い合わせ・申し込み先: 山本篤工 ☎06-6692-8411

■サロン『アイ』12月の社会い

日時: 12月9日(土) 午後2時~4時

場所: 生野区在宅サービスセンター

「おちやま」2階ビューロー室

大阪市生野区勝山北3-13-20

内容: 山形岸煮会

講師: 船津エイ子氏

会費: 200円

問い合わせ先: 生野区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6712-3101

■「サロンつるみ」12月の社会い

日時: 12月10日(日) 午後1時30分~4時

場所: 鶴見会館 大阪市鶴見区横堤5-5-51

内容: みんなで楽しく子育てを!

パネラー: 鶴見区育児サークル「エンゼルクラブ」

会費: なし

問い合わせ先: 鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)

田村 ☎06-6913-7070

■小さな友の会・こころの集い

日時: 12月7日(木) 午後6時30分~

場所: 岸和田市福副総合センター

岸和田市福副町1-5-5 ☎0724-38-2321

内容: 新世紀ごきげな風ぶれ

~やわらかなココロとカラダをつくる~

パネラー: 繁田裕子さん

(気のライフコーディネーター J.プランニング所属)

会費: なし

問い合わせ先: 小さな友の会 ☎0724-22-0686 (夜7時以降)

E-mail: tiisanatomonkai@dl.pdx.ne.jp

■「サロンいたみ」12月の社会いもお休みです

お知らせ

△サロン・あべのV12月の出会い

日時：12月2日(土)午後12時～2時  
場所：「庵(U.N)」

〔大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-30 Hoop地下1階〕

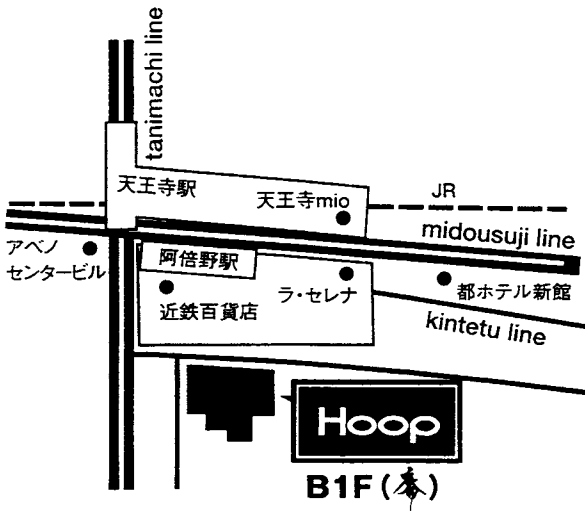
内容：「ホッとくつろぐ昼食会」

会費：2,500円

申し込み締め切り：11月28日

申し込みと問い合わせ先：

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



朗読テープのご案内

朗読グループ「ほけつと」のご協力で(サロン・あべの)紙一七二号の録音テープ(六〇分)が出来ました。

朗読テープ文庫

I (サロン・あべの)紙は、第一号より一七二号までそろっています。(五〇号は九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は二二〇分テープ二本)

II (サロン・あべの)十周年記念誌「はーとが、はろー！」(九〇分テープ二本+二二〇分テープに収録)

III 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)  
「ラジオたんぱ」放送『(サロン・あべの)平成七年五月の出会い』放送分(三〇分)

IV エッセー集「逃げた『ヨナ』」ポランティア活動の周辺(岡本栄一著)糸でんわ音訳  
「キミたちだけじゃ困るんだ」身障者だけで旅した十数年(山田誠1995・2・22著)糸でんわ音訳

V 金子みすずへの旅(島田陽子著・九〇分テープ二本)糸でんわ音訳  
「タヤけ空のオニヤンマー」(牧口二著・九〇分テープ四本)糸でんわ音訳

VI 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著・九〇分テープ五本)糸でんわ音訳  
「セルフヘルプグループ」(岡知史著・九〇分テープ二本+二〇分テープ)糸でんわ音訳

VII 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修)大阪市立天王寺図書館制作

VIII いずれもご希望の方には、ダビング、または貸し出しをします。富田までお申し出ください。

(06-6691-1028)

<サロン・あべの>11月の出会いは、「私の楽しみ…」です。楽しみはいろいろ、走るのが楽しい人もあれば、絵を描くのが好き、唄うのが楽しいという人も。あなたの楽しみをお聞かせください。12月号に特集を予定しています。締切は12月1日(土)。字数制限はなし。書くのはイヤやといわれるんなら、富田(06-6691-1028)へ電話でも。(石)

編集後記 FROM EDITOR

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.173 [H.12.11.18.発行]定価¥100.  
代表；山村貴司〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL 06-6691-9071  
連絡先；富田慶子〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX 06-6691-1028  
表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美瀬子  
郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941  
印刷；セルフ社〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDELL2F TEL 06-6719-8212